



道草ギャラリーその 89 で、NPO 法人建築技術支援協会での 2024 年「歴史的建造物等探訪旅行」の主に 1 日目を書きました。今回はその翌日の写真を拾ってみます。宿泊は小諸で、小諸城址から始まり、上田城址、石井鶴三美術資料室、信濃国分寺、海野宿、春原家住宅、釈尊寺布引觀音（その 89 に記載）、旧中込学校と回りました（私も旅行計画に参画）。上の写真は昼食をとった北国街道の海野宿（重要伝統的建造物群保存地区）です。最近はどこへ行ってもオーバーツーリズムとやらで、外国人が入らない写真すら難しくなりつつあるところも出ているようですが、こんな写真が撮れました。

小諸城は、1585 年第 1 次上田合戦と 1600 年第 2 次上田合戦（徳川秀忠関ヶ原遅参の原因となった）のときに徳川軍の本陣となったところで、当時の城下町より低い位置にある珍しい城で、鍋蓋城ともいわれていたそうです。しなの鉄道（1997 年 JR 在来線を引継ぎ）より東側に大手門と、西側に石垣や三之門（1742 年に土石流で流出し 1766 年に再建、切込みはぎ石積みの石垣で二層の渡り矢倉門）が残っています。両門とも国の重要文化財で、鉄道の西側のみが懐古園として、その中に本丸跡や二の丸跡、懐古神社、徵古館（博物館）や藤村記念館等があります。廃藩置県で廃城になった小諸城は、その後元藩士らによって明治政府から買い戻され、大正 15 年に懐古園として公開されたそうです。児童遊園地や動物園もあります。藤村記念館の前に「椰子の実」の詩碑もありました。島崎藤村は 1899 年から小諸義塾の教師として 6 年間小諸に住んだ後、東京に移った翌年に「破戒」を出版したそうです。



小諸城址 大手門



三之門 懐古園入口

真田昌幸によって 1583 年に築城された上田城は、徳川軍の攻撃を二度にわたって退けたことで知られています。昭和 9 年に国の史跡に指定されていて、三の丸跡は市街地になってしまっていますが、本丸跡、二の丸跡と 3 基の隅櫓が残っています。コンクリートの二の丸橋から入りました。昭和 2 年に濠跡に上田温泉電軌北東線が走り、橋の下に駅もあったそうで、そのとき架け替えられた橋のようです。電車は昭和 47 年

に廃線になったそうですが、今でも城の濠とは違った景色が見られます。水戸駅の近くで水郡線が水戸城跡の本丸と二の丸間の大堀切跡を走っているのを思い出しました（その 59 に掲載）。橋の袂には顔のように見える絵文字がありました。

「二ノマルハシ」だと思います。明治維新後、西櫓以外の櫓・櫓門は取り払われ、西櫓が江戸時代から現存している唯一の建物、東虎口の南櫓・北櫓は、城外に移築されていたものを昭和 24 年に再移築、東虎口櫓門は 1994 年に復元されたそうです。西櫓、南櫓、北櫓とともに長野の県宝に指定されています。真田井戸（深さ 16.5m）は、城北の太郎山麓の砦や上田藩主居館に通じていたと言われています。真田石（高さ 2.5m 幅 3m 程の大石）が東虎口櫓門の石垣にあります。真田信之（信幸）が父・真田昌幸の形見として松代城に移設しようとしたが動かなかったとの伝承があるとのことです。



上田城址のすぐ近く、上小教育会館（昭和初期の洋風建物）の 2 階に石井鶴三美術資料室があります。46 年間も上田彫塑講習会講師を務めた彫刻家の作品（ブロンズ像やデッサン、油絵等）が展示されています。2008 年まで石井鶴三美術館は、近くの旧上田図書館にあったそうで、こちらは大正時代の建物で市指定有形文化財ですが、耐震性能不足で今は入館禁止です。



奈良時代に建立された信濃国分寺は焼失し、室町時代に現在地に再建されたそうです。三重塔は室町時代中期、全国の国分寺に現存する塔の中で最古で、高さ 20.1m、国の重要文化財に指定されています。本堂（1840 年着工、1860 年竣工）は柱間 8 尺をモジュールとして、柱間数桁行 6・梁間 4 で、入母屋造り妻入りで裳階を持った単層です。長野県宝に指定されています。三重塔と本堂ともに文化庁が認定する日本遺産でもあります。この他、鐘楼、大黒天堂、宝蔵、地蔵堂、観音堂、弁天堂や客殿（阿弥陀仏殿）等、幾つもの建物があります。本堂の裏手には大きな蓮池が広がっています。



海野宿は、中山道と北陸道を結ぶ北国街道の宿場として 1625 年に開設され、江戸時代は佐渡からの金輸送や善光寺参りにも利用されたそうです。明治になって養蚕の村となり、江戸時代の旅籠屋造りに、明治以降の蚕室造りの建物が重なりいかにも「伝統的建造物群」といった一直線約 650m の町並みが残っています。妻壁を屋根の上まで高くした江戸時代の本うだつと、2 階の軒下に袖壁を設けた明治時代の袖うだつや、養蚕の通気の為の越屋根・気抜きが見られます。



春原家住宅は、江戸時代初め頃の農家建築を解体修理で復元されたもので、国の重要文化財に指定されています。茅葺き寄棟造り、桁行約 19m・梁間約 8m、40 数坪の住宅で、窓が少なく、東側 6 割が土間で、残りの西側には床が張られ間仕切り壁が多い小部屋になっています。構造的には、上屋と下屋に分かれ、土間には 4 本の独立柱が上屋桁筋に 2 本ずつ立っています。西側の部分では南側の上屋柱は上屋桁より中側に立ち、側柱との繋梁上に束立てで上屋桁を支えています。平面や構造に長野県東南部の農家の特徴がよく表れているとのことです。



旧中込学校は、明治初期 1875 年完成、現存する学校建築のうち最古級の擬洋風建築物で、国の重要文化財と史跡に指定されています。中央の八角塔に吊るした太鼓で、時を告げていたそうです。大正時代に新校舎が建築され、その後は中込町役場や公民館、佐久市役所分室や佐久市開発公社等に活用されてきました。校舎の横に竣工記念に植えられたフジが樹齢 150 年を超えているそうで、現在の中込小学校の校章もフジの花のことです。



NPO 法人建築技術支援協会 会員募集中。 <https://www.psats.or.jp>

(写真撮影 2024.10.01)

< Google マップ参照 >

URL は、下の「PDF はこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

小諸城址懐古園

<https://www.google.co.jp/maps/@36.3285627,138.4168738,16.41z>

上田城址

<https://www.google.co.jp/maps/@36.4049746,138.2439703,16.16z>

石井鶴三美術資料室

<https://www.google.co.jp/maps/@36.4046256,138.2478089,18.66z>

信濃国分寺

<https://www.google.co.jp/maps/@36.3829983,138.2710975,18.5z>

海野宿

<https://www.google.co.jp/maps/@36.362264,138.3141367,16.25z>

春原家住宅

<https://www.google.co.jp/maps/@36.3763423,138.3410093,17.25z>

釈尊寺布引觀音

<https://www.google.co.jp/maps/@36.3315769,138.3858545,16.17z>

旧中込学校

<https://www.google.co.jp/maps/@36.2377791,138.4721323,18z>

(2026.01.01)